

第 12 回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時：令和 3 年 10 月 29 日(金) 15:30～17:00

場 所：Web 会議室

出席者： 高知工科大学	佐藤教授
名古屋大学大学院	水谷教授
静岡大学	原田准教授
国土技術政策総合研究所	加藤海岸研究室長
静岡県交通基盤部	光信河川砂防局長
中部地方整備局河川部	野々村河川調査官
中部地方整備局静岡河川事務所	立松事務所長

<議事>

○資料 1：粘り強い海岸堤防（住吉工区）の模型実験について

- ・ A 区間-2 の構造については、直立堤の海側の盛土が低下せず、一定の粘り強さを発揮していることも含めると、現況の堤防構造で十分な粘り強さを発揮していると言える。
- ・ 今後実施する A 区間-3 の実験では、直立堤が転倒するよりも、背後が洗掘することにより沈下するような結果が予測されるので、津波の流入が顕著となる時点まで粘り強さが確保された時間として評価する。
- ・ A 区間-3 の実験の堤防模型の構造は、L 型擁壁については差し筋が実施され一体構造としているが、転倒時に一体性が確保されるものであるか実験前に構造検討を行った上で設定すべきである。
- ・ B 区間の構造は、水位条件が変わった影響が見られるが、提案された矢板構造により所定の粘り強さが確保できていると言える。
- ・ C 区間の構造は、背後の松に十分に配慮された構造となっているため、提案形状で今後繰り返し実験を進める方針で問題ない。

○資料 2：新たなモニタリング手法の導入検討について

- ・ CCTV カメラ 2 台の視認範囲等を確認し、複数カメラを活用したモニタリングの可能性を検討してみることは有益であると考ええる。
- ・ カメラの画角を複数設定することで、広い範囲の観測や精度向上につながる可能性がある。
- ・ 必要なモニタリングの内容（ニーズ）の面から、今後必要なモニタリングを検討していくのが良いと考える。
- ・ CCTV のカメラはバーム等があり死角が生じる。ドローン等の機動性のある測量方法のほうが精度も高く、実用性が高いと考える。
- ・ 今回のようなモニタリング手法を活用して、コストを下げ、労力をかけずに継続したモニタリングが実施できるようになることを期待している。県においても、静岡県全域の 3 次元の点群データを取得する予定であるため、このようなデータも活用していただきたい。

以上